

アイテムしごと探検隊

今回の探検先は…

川村義肢株式会社

<http://www.kawamura-gishi.co.jp>

1946年に創業以来、義肢装具のトップ企業として「顧客と社員のQuality of Lifeの向上」を理念に、義肢装具から生活サポート用品、福祉用品、住宅改修まで幅広いサービスを開発している。大阪府大東市にある本社には義肢装具・リハビリ機器の製造工場と、900点以上の福祉用具を展示したショールームがある。

●探検実施日:2010年4月6日(火)

体験して納得、義肢と装具の大切さ 「ありがとう」の言葉が仕事のやりがい

働くってどんなこと? 探検前に考えよう



今回探検する義肢・装具※づくりの仕事とはどう違うか。隊員として選ばれた14人の小学生で話し合ってみると、それぞれ介護や福祉の仕事と関連づけ、興味や関心を持つているようだ。けれども働くことの具体的なイメージを尋ねると、「パソ」「へとこらめっこ」「疲れる」「お金を稼ぐため」といった答えが中心で、具体的にイメージできた子は少数だ。川村義肢で行われる仕事について、尋ねたい質問や、知りたいことを書き出してみる。そして子供達は本町にあるアイテムからバスで1時間、大阪府大東市にある川村義肢株式会社へやってきました。

※義肢/義足と義手の総称
装具/ハンディのある体幹・四肢に装着する器具

マーケティング本部の黒島さんから義肢と道具、車いすについて話を聞いたあと、早速工場の中へと入って行く。まず通された3階では、オーダーメイドで義肢を作っていた。義肢や装具は体に密着するため、石膏で体の型を取って成型し、一人ひとりに合った「ソケット」と呼ばれる人と義肢をつなぐ部品が作られる。加工には機械の力も借りるが、細かな手作業が欠かせない。川村義肢ではその技術を応用し、パラリンピックなどで使用される競技用チエアスキーの部品も手がけているそうだ。樹脂や石膏、ゴムを型に塗る作業が行われている工場は、溶剤の匂いがツンとする。



働く人から話を聞いた 義肢・装具の仕事

見学の後は広い会議室で質疑応答。ここで子供達の前に登場したのは本社製造部 義肢課の神田さんと、車いす・姿勢保持課の小阪さんだ。次々と出てくる質問に、たとえ話を交えながら優しく答えてくれた。車いすの歴史や、工場では1日に20~30人分の義肢・車いすを作っていること、また、義肢・装具づくりは1人で行うこともあれば3、4人で協力しながら作ることなどを教えてくれた。そして、仕事に就いて良かったことを尋ねると、「ハンドディをもつて義肢を作りにきたお客様に、でき上がった製品がピッタリ合うと、お客様は今までできなかつたことがまたできるようになるんだ。そのとき言われる『ありがとう!』が一番うれしい」という答えが。子供達は、川村義肢で働く人がその仕事を誇りにしているのだと知った。

最後は営業本部の清水さんの案内でショールームへ。ここには電動の車いすやカート型のシティウォーカー、体の不自由な人が使う補助具などがズラリと並んでいる。子供達はそれぞれの車いすに試乗してその乗り心地を確かめた。これらの乗り物は自転車と異なり歩道を走らせても良いのだ。一方、衝突事故を避けるために最高速度が時速6キロメートルと、法律で決められているそうだ。次に子供達は、お年寄りの体の動きを疑似体験。膝や首に装具を付けたとたんに腰が曲り、歩く足が重く、おぼつかなくなる。杖をついて「歩けないよー!」と言ひながら一回りした子供達には、日常生活を支える補助具の大しさが十分に伝わったようだ。

お年寄りになると体はどうなる? 補助具の使いかたを体験

朝、集まつたばかりのときは緊張していた子供達も、アイデムに帰つてくる頃には仲良くなり、活発な意見が出るようになる。またこの時間では、2つのグループに分かれて見たこと、聞いたことの中から印象に残つたものを書き出し、それぞれにカラフルなシートを仕上げた。義肢・装具と車いすづくりは想像していたより手作業が多くつたこと、働く人の喜びなど、新たな発見や驚きをイラストも交えて発表した。子供達は川村義肢で働く人達を見て、仕事の大切さや真剣に向き合った姿を学んだようだ。

初めて見たこと、知ったこと 仲間と一緒にまとめて発表



また義肢を使う人や、足にハンディのある人が並んでいる。車いすも義肢と同じように、専用の靴も作られている。続く2階には様々な形の車いすが並んでいる。既製の車いすに固さの異なるクッションや、姿勢保持のための装置を取り付ける工程には、「現代の名工」に選ばれる職人も携わることがあるという。

日常生活で困ることがないように、専用の靴も作られている。車いすも義肢と同じように、専用の靴も作られている。既製の車いすに固さの異なるクッションや、姿勢保持のための装置を取り付ける工程には、「現代の名工」に選ばれる職人も携わることがあるという。



感想コーナー

- いろいろな車いすや義手、義足があった。歴史などがわかつて良かった。
- 車いすは思ったよりも乗り心地が良かった。体験できて楽しかった!
- 機械で作っていたと思っていたけれど手作りで、最初にイメージしていたものと違っていて驚いた。
- 体の不自由な人が使うものの工夫がすごかった。



川村義肢株式会社 広報部 酒井深名さん

この度は、見学にお越しください、ありがとうございました。会社に入ってきた時には、元気な声で挨拶をしてくれ、私たちが説明している間もメモをとりながら、熱心に聞いていました。当社はオーダーメイドの製品が多く、職人による手作業が多いのが特徴ですが、興味深そうに見学していたことが印象的でした。こちらが予想もしていなかった質問や斬新な視点に、私たちもとても勉強になりました。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力のお願い

(株)アイテムでは、訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子供達が「仕事」について考える機会と一緒に提供していただけませんか?

お問い合わせは
「アイテムしごと探検隊」事務局まで

0120-938-989

に分かれて見たこと、聞いたことの中から印象に残つたものを書き出し、それぞれにカラフルなシートを仕上げた。義肢・装具と車いすづくりは想像していたより手作業が多くつたこと、働く人の喜びなど、新たな発見や驚きをイラストも交えて発表した。子供達は川村義肢で働く人達を見て、仕事の大切さや真剣に向き合った姿を学んだようだ。